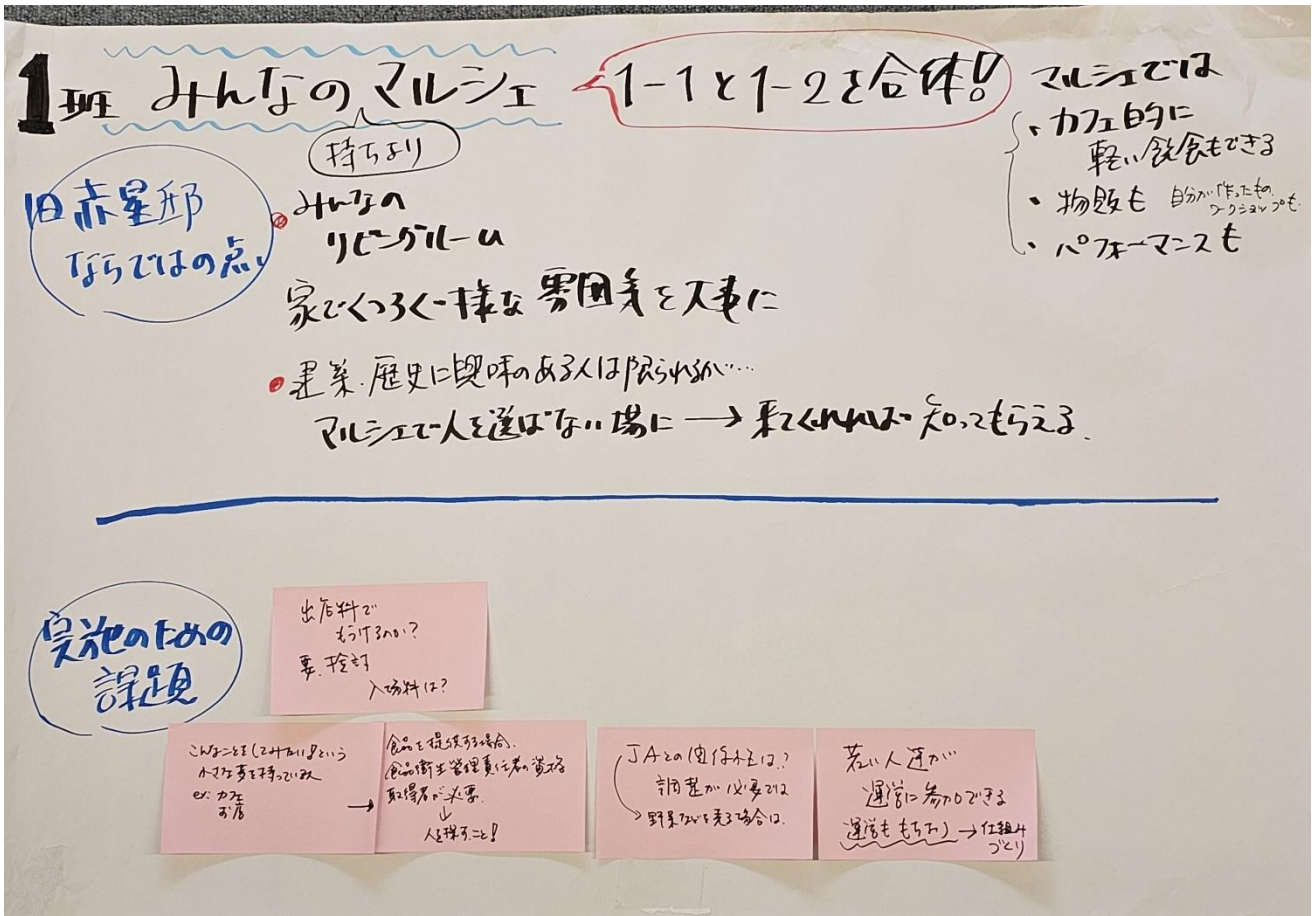


市民ワークショップ第4回目の実施について

- 1 日時 令和5年7月9日（日）午後1時半から午後4時半まで
- 2 人数 31名（5人×5班、6人×1班）
- 3 内容
 - (1) 情報提供
 - ①一般公開の実施結果・得られたこと
 - ②第4回有識者会議での議論の共有
 - ③オープンハウスの結果共有
 - ④事例紹介（杉並区：荻外装、世田谷区：桜丘すみれば自然庭園）
 - ⑤今後の社会実験について
 - (2) グループワーク
 - ①今までの論点と今後の方向性について確認
 - ②前回のアイデアシート（利活用検討シート）のふりかえり
 - ③アイデアシート（利活用検討シート）をブラッシュアップ
 - ④発表とメッセージ交換（各自で他の班に対するメッセージを付箋に書きそれぞれの模造紙に貼り付け）

○利活用検討シート(第3回、第4回で作成)

<p>ア)タイトル What</p> <p>イ)ねらい・目指すこと Why</p>	<p>前回（第3回）で作成、発表した項目</p>
<p>ウ)対象 whom</p> <p>エ)内容 how</p> <p>オ)場所 where</p> <p>カ)頻度 when</p> <p>キ)実施体制（関わる人や団体） who</p> <p>ク)実現に向けた留意点や試行・準備すべきこと</p>	<p>今回第4回で完成させた項目</p> <p>※第3回でも班ごとに記入できるところは作成した</p>



みんなが色々なモノ（飲食、物販、パフォーマンス）を持ち寄って楽しめる場
こんなことをしてみたいという夢を実現する場

○旧赤星邸ならではの点

- ・ かつて個人の邸宅だったことからリビングルームとしてくつろぐような雰囲気を大事に
- ・ マルシェという人を選ばない場にする事で、建築や歴史に興味のない人にも来てもらい、赤星邸という人物や建物の歴史を学んでもらえるような場

○課題

- ・ 食品衛生管理者を置く必要があるのではないか
- ・ 市内農産物販売はJAとの調整が必要では
- ・ 中学生や若者が運営に参加するための仕組みづくりが必要
- ・ マルシェから旧赤星邸の運営費をどう捻出するか（出展料、入場料など）

2班-1

タイトル 武蔵野の家
ふらっと行ける

ねらい 目指すこと 子供から大人まで 静かに過ごすこと、レモンさんのお家でもお家の場所として使ってもらい、館費にふらっと行くことが出来る

対象 コーベンと公園の向かいの両方

内容 飲食の提供 飲食の場の提供

場所 雑居空間で集まる

頻度 毎週末

実施体制 異日帯 別荘 雑居空間

メンバー名

2班 [異日帯 毎日と自分かづる]

MUGGIPのよう
管理者がいる

実施体制 (関わる人や団体)

実現に向けた留意点 試行・準備すべきこと

メンバー名

- ・建物と庭でくつろぐ「異」日常体験
- ・日常的ではなく、半年や月に1度、別荘に行くようにリフレッシュできる場所
- ・施設を管理する人はいるが、その下で市民が自由に活動できるような施設
- ・一般の人を対象に

2班-2

タイトル レモト建築資料館 レモト先生の本相

ねらい 目指すこと アニモン・レモンドが設計した建物に関する資料や情報を集めて公開する。

対象 一般市民 (市外の方含む) 建築の専門家 学生たち

内容 図書館(書庫) 展示 資料(研究資料)

場所 別棟でも可

頻度 年中開館

実施体制 法人(-社?) (学芸員が欲しい)

メンバー名

2班

入館料 500円

建築関係者の集り

全部はレモトさんにお金を払って利用と分かる

別荘体験

↑

本館ではお茶室からし体験

↑

ナニワ商会のくらし体験

肉末大震災を機に転居 → 100円/月

実現に向けた留意点 試行・準備すべきこと

- ・登録有形文化財でない部分の活用を想定
- ・建物や暮らしの歴史を展示、アーカイブ
- ・大学の研究室や建築関係の方がお金を出し合って財団を作り、アーカイブを充実させながら管理、
- ・歴史や建築に興味のある方を対象に
- ・関係者や興味がある人同士の交流の場

大テーマ「赤星邸を知ってもらう」

1年目、2年目を通して伝達し、3年目で建物と庭を未来へ残すことを実現可能にしていくというステップ（対象は市民と市民以外でも歴史・建築に興味がある人）

○1年目 庭と建物を楽しみながら知ってもらって記録に残す

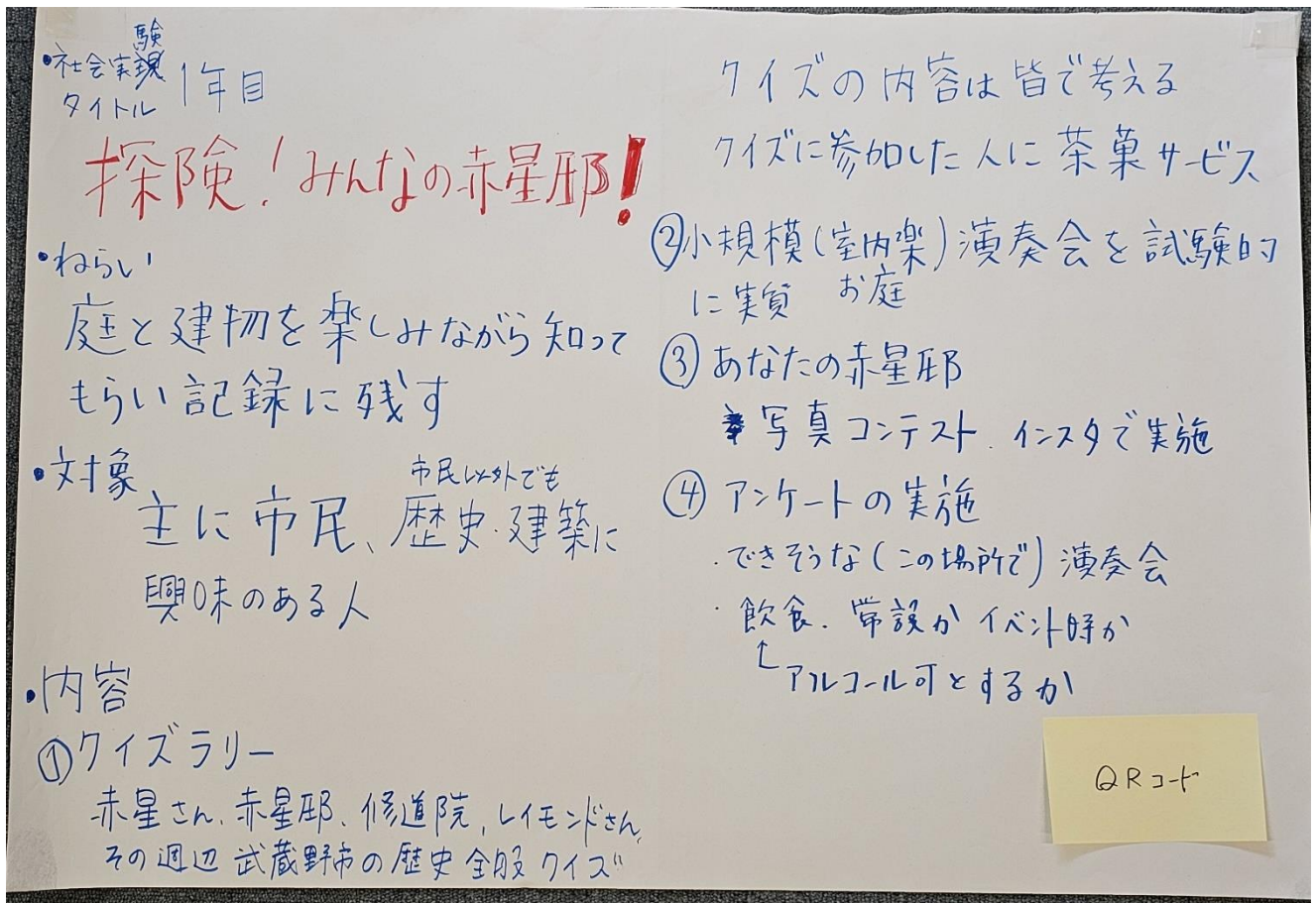
- ①クイズラリーを通して、建物や歴史を知ってもらい、クイズが終わったら最後にお庭を見ながらお茶を飲んでのんびり過ごしてもらう
- ②小規模演奏会を実験的に試す（室内やお庭で）
- ③あなたの赤星邸というテーマで好きな写真をとって記録に残してもらう
- ④アンケートの実施 どんな演奏会ができそうか、飲食は常設 or イベント的、アルコールは？

○2年目 1年目の結果を踏まえて、事業者と連携してARや映像のデジタル技術を使い、当時の風景を再現する。当時の模型を作って見てもらう。

アンケートを踏まえて、カフェや音楽イベントをやってみる

○3年目

1年目、2年目の実証実験を通してやってみたこと、歴史的価値を記録したものを、赤星邸を未来に伝承すべく、具体化させていく。



社会実験 2年目

赤星邸の未来への伝承

③ ヒースタは継続

表現方法
7×4化二馬路

赤星邸の未来への伝承へ

内容

1年目の結果を踏まえて
事業者と連携

ウイザリ-とかは
指しも指しを
楽しそうに
楽しそうに

とどろきの
舞臺に
AR
AR

3-2
赤星邸に
AR

メッセージ (3枚で1プロジェクト)
(3ヶ月計画!)

① ARの活用

・専門家と連携し、^{当時の}模型作成

② アンケートの結果を踏まえて

・カネ営業レベルで実現できそうな
ことを実施
・音楽イベントを実施

探検「赤星邸」
赤星邸の歴史を
再現する

AR活用
2年目の結果を
踏まえて

3班
具体的な
AR活用

3班
AR活用は
楽しむ

3班
AR活用は
楽しむ

3班
AR活用は
楽しむ

タイトル 社会実験終了後
赤星邸の未来への
伝承

メンバー名 3班

ねらい
目指すこと 赤星邸の歴史的価値をなく
後世に伝承する
・上記のための収益の確保

対象 左(市民に限定はなし)
誰でも

内容 建ち具学、カフェ(お茶・お菓子・休む)
季節のコンサート・イベント

場所 2F+庭など
1F+庭など

頻度 土日は開いてほしい

実施体制 コンサート → 武蔵野文化財団?

2Fを展示は
日常のコーナー
部屋

1. 天井の高さ、赤星邸で
室内装飾の魅力
2. 室別の歴史を知る機会
3. 室内装飾を学ぶ
(AR活用) 伝承への貢献

建ちを現状のまま残せよう
専門家との連携

実際にハードを再現し
てみる

タイトル	晴れの舞台でも使え、 市庁の憩いの場	メンバー名	
ねらい 目指すこと	去皇御馬印の おとどけを出す。 市内の 中央図書館	史料館的な 場所は静かなので 見守り人はいらないかも	
対象	隣接 商店 町立 中央図書館 市庁	2Fに2Fで 第1回 赤星商店 貸し出し マンガ、花、色紙、カラー	
内容	経路式の染上 アニメーション （色紙、色紙） 貸し出し	雨天でも楽しめる 可動式アートを復活	多くの2Fに 貸し出ししたい。 市庁も貸し出し
場所	01F + 2F 02F	市内の店舗に 貸し出し （モテモテ的に）	
頻度	0 常設 0 経路式、カラーは常設	見守りホール（ 絵本読み聞かせ 紙芝居）	
実施体制			

社会実験プログラム

1つの村のように
建物の
後の活用

1F 市内の店舗にお試し出店
短いサイクルで
社会福祉法人(七福)に出店
就労支援
ちいさ美味い!!

2F 建物おこしの説明がとおの
史料展示、映像 + 子どもがのびり
見守りホール（絵本読み聞かせ、紙芝居）
→ 親は1Fを過ごせる。

一般公開の建物の奥に
人が入るとおもしろい
使い方、ゾーニング!

お客さんは近隣住民!! ← 課題は取り除く。
応援して下さる / お客さん、お祭り、お祭り ← 対話を重ねることで安心感を生み出す

- 1つの村のように多様な機能があり、人が集まる場
- 1階は市内の店舗がお試しで出店（短いサイクルで）
- 2階は建物の資料館（史料展示、映像）+子どもがのびり（見守りあり）
- お客さんである近隣住民と対話を重ねることで安心してもらう、見方になってもらう（使い方やゾーニングについても）

メンバー名

タイトル ミニレポートルダム 修道院のヨウホキ
ちよと困ったを話せる 場所 相談室

修道院の守り立て
 11代目住持
 土継家

4-2

ねらい
 目指すこと

愛するは愛かた
 あり残れば
 の重みに何を志願する
 ちよと困った

ここから
 修道院であったことを
 忘れずに。

ちよと困ったを
 話せる場

色んな人の話、アヒカ
 ぬはあ

修道院の歴史が
 長いこと
 伝わりやすい。

5
 6

対象 シングル 子ども 若年層 孤立して...者 DV

～25才

内容 母子の負困 親子食堂 子ども食堂 親のいる居場所 安全な居場所

つながり
 やりがい

適切な支援に
 つながる情報
 (SW)

場所 厨房を使う 庭に面した
 日本間 夫入室子供部屋
 の中の何室か

庭

庭に向けた留意点
 旅行・準備すべきこと

頻度 月1,2 (緊急時)

シーズン11回
 (草刈り)の通時

(常時)

実施体制 基本市民の1/4余り(1日時間)や器具馬車を集める
 それをまとめる専任の家(弁護士、S.W.、心理士、保育士)と児相や子家セン、市役所(行政)連携大切!!

4-2

社会実験のやり方

この場所だからこそできるメリット

① 需要をとらえる。

近所
 場建設

- 市報などで場所を、近所/福祉関係
- 修道院の近所(教えてもらう)
- 近所の人を話せる

近所の人を話せる

近所の人を話せる

② 近所の人々の理解をいただく。

③ 必要とされる存在になる。

- 高齢者など、この場所が役にたつ
- 社会的な影響を及ぼす
- 一時的な相談室として

↑ 社会的な場所(存在)

- ・福祉関係やNPO、ボランティアが協力し、弱い立場の人が相談できる場所に
- ・高齢者や障害を持っている方に優しいイメージのある武蔵野市で、修道院だった赤星邸ならではの案
- ・修道院で様々な人が語り、聞いてもらい、守られていたことを継承
- ・負のイメージもある案なので、近隣住民の方の理解を得るためにも、近隣住民にとってこの場所がどのような存在だったか、どういう存在であってほしいかワークショップを行って仲間になってもらう。

5班-1

タイトル 「火」を使えるプレイパーク 武蔵野の「食」と「自然」を楽しむ 「うどん」と地域の農作物

ねらい 目指すこと 庭の中で楽しむ 料理を中心に集まりやすいように

対象 近隣市民 外国人

内容 ちのち(お)を上手に活かせるか? → ちのち / 料理会 → 音響環境改善

場所 中から見た庭の美し 庭は積極的に活用可能な社会実験

頻度 毎月1回の利用?

実施体制 実現に向けた留意点 試行・準備すべきこと

メンバー名

武蔵野の「食」と「自然」を楽しむ

- 積極的に庭を使い、料理を中心に人が集まりやすい場
- 厨房を使った企画、テラスを使って調理し、みんなで楽しめる場
- 近隣住民、外国人、子どもから高齢者、幅広い人を対象に、学生(成蹊大生)も巻き込む
- 火を使えるか確認したい

5班-2

タイトル 旧赤星邸を築く

ねらい 目指すこと 建築好きを引込む場所 建物の維持 観光ははやく...

対象 建築好きな人(オタク) 市民のための場

内容 歴史的な説明 + パネル展示 展示資料の作成 郵局 借り 募集方法 建築雑誌の公募 学会での公告

場所 展示の方法 市HP 特設ページ 作成

頻度 コンサート頻度 毎月1回 常設展 金土日開催

実施体制

メンバー名

音/測定値 データ収集

市民の芸術家と一緒に協力して(能.ノハラ)

- 旧赤星邸を全国の人に知ってもらうため、建築雑誌や土木、建築の学会で紹介、成蹊大学の先生方にも告知してもらう
- 武蔵野市のホームページに特設ページを作る
- 見学、資料展示を常設し、企画としてはコンサートを実施してみたい
- 騒音について、社会実験で得られた測定値をデータで示して近隣住民に理解してもらう

6班-1

タイトル	レイモンド建築の聖地化 (アニメによる)	①②は2班の レイモンド資料館の 企画と接続	武蔵野市レイモンド 資料館の企画と接続 入館料 023
ねらい 目指すこと	①レイモンド建築-構造の特徴を伝える ②庭と建物の関係-バランスを伝える「建物は森の中の」 ③周辺の建物(濱家西洋館)もあわせて鑑賞ツアー	唯一無二 であることを伝える	唯一無二 であることを伝える
対象	学生団体	武蔵野市=吉祥寺周辺の 観光で特定されたレイモンド の周辺都市文化都市の イメージとレイモンドの建築	アニメ関連+赤星邸 グッズ販売 NPOフリーガイド体制
内容	①修学旅行/市内ツアー ②パネル・模型の展示, ガイドツアー ③アニメ製作で聖地化へ	アニメは 集客のための 企画	緑濃き園文化 都市としての武蔵野市 を伝える(その一環 としての赤星邸アニメ)
場所	赤星邸	赤星邸などを 舞台にしてアニメ を鑑賞金付きで 募集	実施体制 建築博士 によるガイド QRコードによる 解説
頻度	月1回程度	クラウドファンディング も活用	市 の 予 算

- ・建物の魅力を伝えるために、来てもらうための方策としてアニメを作る
- ・市民と市でアニメ台本のコンペ審査を行うアニメ委員会を作る
- ・制作費はクラウドファンディングや市の予算、武蔵野市全体を平面として描いて市の観光事業とする
- ・来場者には、レイモンド建築を伝えるため、ボランティアやNPOによりガイドツアーや庭と建物の一体としての鑑賞のポイントを解説

6班-2

タイトル	皆で作る 祝福・祝祭の場	メンバー名	6班王
ねらい 目指すこと	『次世代のプレイス』 『残った活動の場』 『未来の場』	対象	市民 写真同好会 の 人 に お け る 展 覧
内容	日常 > 音楽等の練習場 読書会等の活動 集客方法 日常的に使用しての 提供 ex. コffee 被服室 1人1台対応 QRコード 音響設備 人集め	実施体制	3層: 市民(市) 2層: 写真同好会 1層: 家族写真 NPO(写真同好会) 写真同好会 の 人 に お け る 展 覧 必要 写真同好会 の 人 に お け る 展 覧 必要 写真同好会 の 人 に お け る 展 覧 必要
場所	飲食店(市)の 活用 日常 > 毎日 イベント > 特別実施	実現に向けた留意点 試行・準備すべきこと	音楽ができれば 嬉しい その お け る 展 覧 必要 写真同好会 の 人 に お け る 展 覧 必要

- ・アクセスや人数、騒音等の課題を踏まえて実施
- ・人数を絞り、建物の維持管理を最小限に
- ・ロケーション自体を貸すことで収益を得る
- ・未来に向けたギフトとして、家族写真を撮る会や1日写真館
- ・体制は施設管理を別団体がを行い、プログラムはその下で運営を補佐する団体を取りまとめて実施団体がプロジェクト型で行う三層型